

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2001-039586
起案日	平成17年 2月25日
特許庁審査官	鈴木 肇 9847 5D00
特許出願人代理人	山川 政樹 様
適用条文	第29条第2項、第36条

<<<< 最 後 >>>>

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項1、6～7
- ・引用文献等1～4
- ・備考：

引用文献1（段落0099～0108等参照）、引用文献2（段落0024～0025等参照）には、フォーカス誤差信号に基づいて、光ディスクの透明基板の厚み誤差を検出し、それによる球面収差を補正するようにした光ディスク装置が記載されている。

また請求項7に関して、予め複数の異なる半径位置での補正量を検出、記憶しておき、再生時に、記憶しておいた補正量を用いて補正動作を行うようにする点は、引用文献3（第3頁右下欄第3～20行等参照）、引用文献4（第5頁左上欄第10～14行等参照）に周知である。

2. この出願は、明細書及び図面の記載が下記の点で、特許法第36条第4項及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

A. 請求項1には「フォーカス誤差信号の正のピークと負のピークの対称性やピーク間の距離に基づいて規定値に対する前記透明基板の厚み誤差を検出」とあるが、「正のピークと負のピークの対称性やピーク間の距離」とは、どのような値（パラメータ）か不明確であり、フォーカス誤差信号の、何の値から厚み誤差を導くのか不明確である。

B. 請求項4には「フォーカス誤差信号の正のピークの検出位置と負のピークの検出位置との距離間隔であるフォーカス引き込み範囲の変化に基づいて前記透明基板の厚み誤差を検出」とあるが、

発明の詳細な説明には「フォーカス引き込み範囲の絶対量を検出」（段落0093）する旨は記載されているものの、「フォーカス誤差信号の正のピークの検出位置と負のピークの検出位置との距離間隔であるフォーカス引き込み範囲の変化」を検出する旨は記載されておらず、上記「・・・の変化」とは如何なる値か不明確である。

C. 請求項5には「正のピーク付近の波形に対して前記負のピーク付近の波形が鈍った形状の場合には、前記透明基板の厚みが規定値よりも厚いと判断し、前記負のピーク付近の波形に対して前記正のピーク付近の波形が鈍った形状の場合には、前記透明基板の厚みが規定値よりも薄いと判断する」とあるが、「正のピーク」と「負のピーク」とは、如何なるピークか（S字の上下一対のピークのうち、ディスクに近い側に現れるピークか、遠い側で現れるピークか）不明確であり、透明基板の厚みが規定値より厚いか薄いかを、どう判断するのか不明確である。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覧

1. 特開平11-259893号公報
2. 特開2000-076665号公報
3. 特開平01-184638号公報
4. 特開昭64-046240号公報
5. 特開平09-251645号公報

最後の拒絶理由通知とする理由

1. 最初の拒絶理由通知に対する応答時の補正によって通知することが必要になった拒絶の理由のみを通知する拒絶理由通知である。

整理番号:34803587 発送番号:072727 発送日:平成17年 3月 1日 3/E

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部情報記録 鈴木 肇

電話 03-3581-1101 内線3550

FAX 03-3501-0715